



瀬戸俊之作成

図1 遺伝的素因と環境要因の関係

に侵入しても感染症が発症しなかったり、発症しても軽くすむ方がいます。逆にインフルエンザに感染した子どもさんの一部には脳症になる方もいます。このような差はなぜおこるのでしょうか。

これはその感染症に罹患する方の遺伝的な体質（宿主要因または遺伝的素因）によると考えられます。極端な例をいえば生まれつきの免疫不全症は感染症にかかるたいへん重症化します。このような原発性免疫不全症というのは、軽症の方も含めて従来いわれているよりもかなりの方がそのような体質をおもちということが分かります。このようなことが分かってきたのも遺伝医学の進歩によるものです。

では、怪我や事故による外傷はいかがでしょうか。これは遺伝的な体質は関係ないように思われるかも知れませんが、これも怪我をしやすい体質（例えば骨折しやすい、捻挫しやすい）や、不注意傾向があり事故に遭遇しやすいというのも含めれば遺伝的な体質が関連している方がいるのではないかとはいわれています。精神疾患も同様で環境によるストレスの質や量は発症に大きく影響するでしょうが、軽いストレスでも精神的疾患を発症する方がいるとすればそのような個人差はもつて生まれた遺伝学的な体質が関連していると想像されます。

一方、希少疾患とは、先ほど述べた生活習慣病（高血圧症や高脂血症、